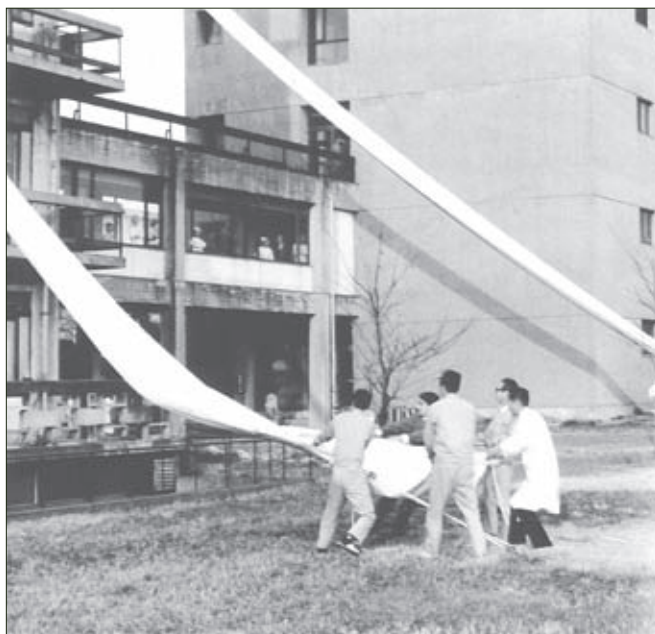


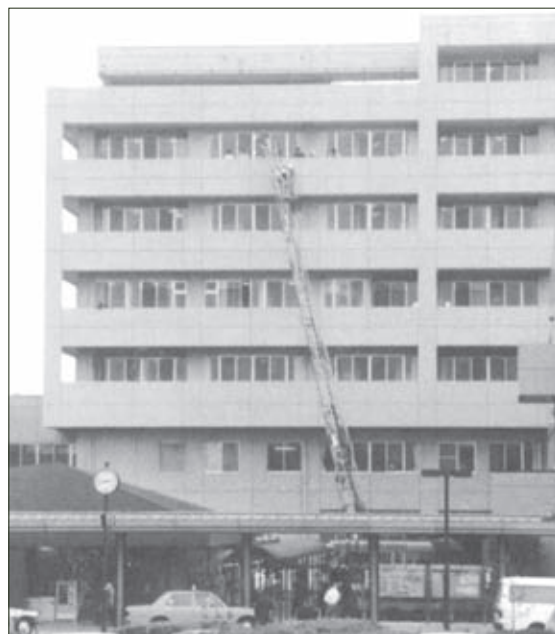


関東中央病院 Memories 思い出のアルバム No.11

このシリーズは、平成5年（1993年）1月から、「緑のひろば」で12回にわたって連載された記事の再掲載です。



◀ 旧西病棟でのシューターを使った防災訓練



▶ はしご車を使った昨年秋の訓練

今年も余すところ2ヶ月余となりました。細川連立内閣の誕生、Jリーグの隆盛、冷夏……いろいろありました。

医療関係者として気になったのは、豪雨で鹿児島島の病院が土砂で埋まったこと。そして、奥尻島を中心とする北海道南西沖地震の惨状です。関東中央病院は土砂崩れとは無縁ですし、建物は鉄骨鉄筋コンクリート造ですので地震や津波による倒壊の心配はないでしょう。

が、一番怖いのは火災です。当院では毎年2回の防災訓練は欠かしませんし、自衛消防隊技術審査会にも参加し、防災に対する意識の高揚を計っております。

左上の写真は、旧西病棟南側で行われた昭和58年頃の防災訓練です。今は写真のような避難用シューターはありませんが、防火区画や消火設備が徹底していますので、万一発火しても他の区画への延焼を防ぐ構造になっています。昭和28年の開院当初の防火設備とは「雲泥の差」以上のものがあります。ただ開院当初は木造平屋建てでしたので、もし出火したとしても窓から飛び出せたので「避難」に関しては優れた構造でした……？

（平成5年11月号掲載）